[別紙　2]

審査の結果の要旨

氏名　堤敦朗

本研究では、1）国際的に比較可能なQOL、精神保健のベンガル語版を作成し、その信頼性と妥当性を検証すること、2）ハンセン病患者のQOLや精神健康を一般人口と比較し明らかにすること、3）QOLと、人口統計学的データやスティグマ自己認識などの因子との関連を明らかにすることを目的とする。方法としては、バングラデシュ・ダッカにおける国立ハンセン病専門病院における患者188名（患者群）、患者群の居住地区を都市部、農村部、スラム地区の3つに分類し、その居住地区比率を一致させた一般人口203名（比較群）を対象に質問票を用いたインタビュー調査を行った。質問票は、人口統計学的データ、QOLを評価するためのWHOQOL-BREF（The World Health Organization QOL Assessment Bref）、精神健康を評価するためのSRQ（Self Reporting Questionnaire）、Activities of Daily Living（ADL）をコントロールするためのThe Barsel Index、及びスティグマ自己認識を測定するために著者によって作成されたPSQ（Perceived Stigma Questionnaire）で構成された。また、ハンセン病に伴う変形の有無を評価するため、患者のカルテも情報源とした。質問票は英語で作成され、2名の英語とバングラデシュ語のバイリンガルが独立して翻訳し、更に別のバイリンガルによってバックトランスレーションされた。その質問票を用いた予備調査後、必要な修正を加え、最終版が完成された。更に再テスト信頼性の確認のために24名が初回インタビューから1週間後に再度同様のインタビューを受けた。これらについて下記の結果を得ている。

1. 使用したバングラデシュ語版尺度の一定の信頼性・妥当性が示された。

2. ハンセン病患者の QOL と精神健康度は一般人口と比べ有意に低かった。

3. スティグマを受けていると認識している者は、両性において、そうでない者よりも QOL と精神健康度が有意に低いかその傾向を示した。

4. また、低い QOL と関連があったのは、スティグマ自己認識があること、身体の変形があること、教育年数が短いこと、年収が少ないことであった。スティグマ自己認識を持つことが低い QOL と最も関連があることが示された。

以上、本論文は、バングラデシュにおけるハンセン病患者の QOL、精神保健、スティグマ自己認識やそれら相互の関連を初めて明らかにし、ハンセン病患者の QOL の低さと、その QOL に関連する要素を明らかにした。本研究は、ハンセン病患者におけるスティグマ自己認識と患者の低い QOL との関連から患者自身の社会的困難に焦点を当てていく必要性を示した初めての研究であり、重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。